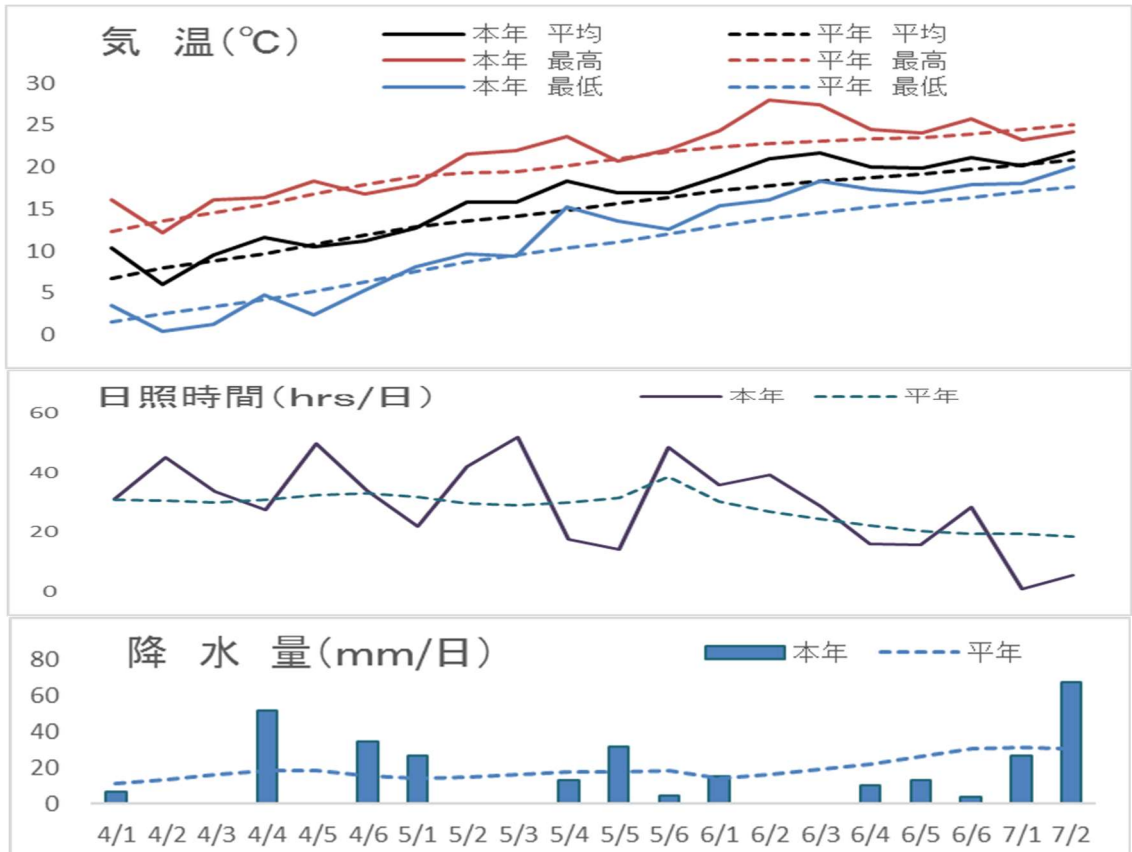


～平坦地帯の「ひとめぼれ」等は、幼穂形成期に達したと思われる～

1 令和3年の気象(古川アメダス)



◆東北地方の1か月予報(7月10日～8月9日までの天候見通し)

- ・東北太平洋側では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。
- ・平均気温は、高い確率 60%，平年並みの確率 30%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。

〈向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%)〉

【気 温】 東北地方	10	30	60
【降 水 量】 東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】 東北太平洋側	30	40	30

〈気温経過の各階級の確率 (%)〉

1 週目 東北地方	10	20	70
2 週目 東北地方	10	30	60
3～4 週目 東北地方	30	40	30

2 生育状況（7月9日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査〕

(1) 宮城県古川農業試験場調査〔作況試験 ひとめぼれ〕

- ・草丈は63.9cmで平年比111%，茎数はm²当たり635本で平年比108%である。
- ・葉数は、10.4枚で平年より0.3枚多く、生育ステージは概ね平年並みと推測される。
- ・葉色（GM値）は38.4で、平年より若干低下している。
- ・幼穂長は1.9mmに達しており、7月7日頃に幼穂形成期に入ったと考えられる。今後、平年並みの気温で推移した場合、出穂期は8月1日頃（平年8月2日頃）と予想される。

7月9日 県古川農業試験場調査〔作況試験：ひとめぼれ〕

移植日	草 丈		茎 数		葉 数		葉 色		幼 穂 長	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (枚)	平年比 (枚)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (mm)	平年差 (mm)
5月10日	63.9	111	635	108	10.4	0.3	38.4	▲ 2.2	1.9	0.0

(2) 地帯区分別【参考】

- ・草丈は、全域で平年並み～やや上回っている。茎数は、三陸沿岸地帯を除いて前回調査（7月1日）時より少なくなっている。葉色は、全域で平年より低下している。

県農業改良普及センター調査〔生育調査ほ ひとめぼれ・ササニシキ〕

地帯区分別	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
北部平坦	61.1	101	557	95	39.7	▲ 0.3
南部平坦	65.7	102	515	98	37.6	▲ 0.7
仙台湾沿岸	61.1	102	516	94	39.8	▲ 0.7
西部丘陵	60.0	101	519	94	39.8	▲ 3.9
三陸沿岸	58.0	105	528	93	36.0	▲ 1.5

(3) 幼穂の生育状況【参考】

- ・7月7日；角田市の「つきあかり」（ひとめぼれより2日程度早い）で、幼穂長20～25mm
- ・7月9日；石巻市の「ひとめぼれ」で、幼穂長2～3mm

3 今後の管理

(1) 肥培管理

- ・県内平坦地帯における「ひとめぼれ」や「ササニシキ」等の中生品種は、概ね「幼穂形成期」を迎えたと思われる。稲の茎数や葉色等、生育状況を確認しながら、適期に追肥作業を実施する。

◆品種ごとの追肥窒素量（kg/10a）は、以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1～1.5	2	1	-

◎出穂期は、「だて正夢」では「ひとめぼれ」に比べて1～2日程度、「金のいぶき」では4～5日程度遅い。

◎「だて正夢」や「金のいぶき」は、茎数や葉色を確認しながら、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、適期に追肥を実施することによって収量が確保できる。幼穂等を観察し、適期追肥を心がける。

(2) 病虫害防除

① いもち病

- ・ 葉いもちの初発が平年より早く確認されたことから、宮城県病虫害防除所は7月9日付けで、いもち病に関する「注意報第1号」を発行した(防除所 HP 参照)。
- ・ 7月7日以降、下記のように「葉いもち」の感染好適条件が連続して県内広域に出現している(●が感染好適条件)。
- ・ 直播栽培等、箱処理剤を使用していない水田等では、こまめに見回り、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤等で防除する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/7	○	—	—	●	—	—	—	●	●	—	—	—	●	—	●	—	—	—	—	—
7/8	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●
7/9	○	●	●	●	—	●	●	—	●	●	●	—	—	△	●	●	●	●	●	●
7/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●	●	●
7/11	○	—	●	●	●	●	—	—	●	—	●	—	—	—	—	—	—	●	—	●

② 斑点米カメムシ対策

- ・ 畦畔や雑草地・牧草地等の草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終える。
- ・ 本年は、前年より出穂期が早まる見込みであり、早い所では7月第6半旬には出穂期に達すると思われる。早めに草刈りを終えるとともに、薬剤防除に際しては、下図を参照しながら早めに準備・実施する。

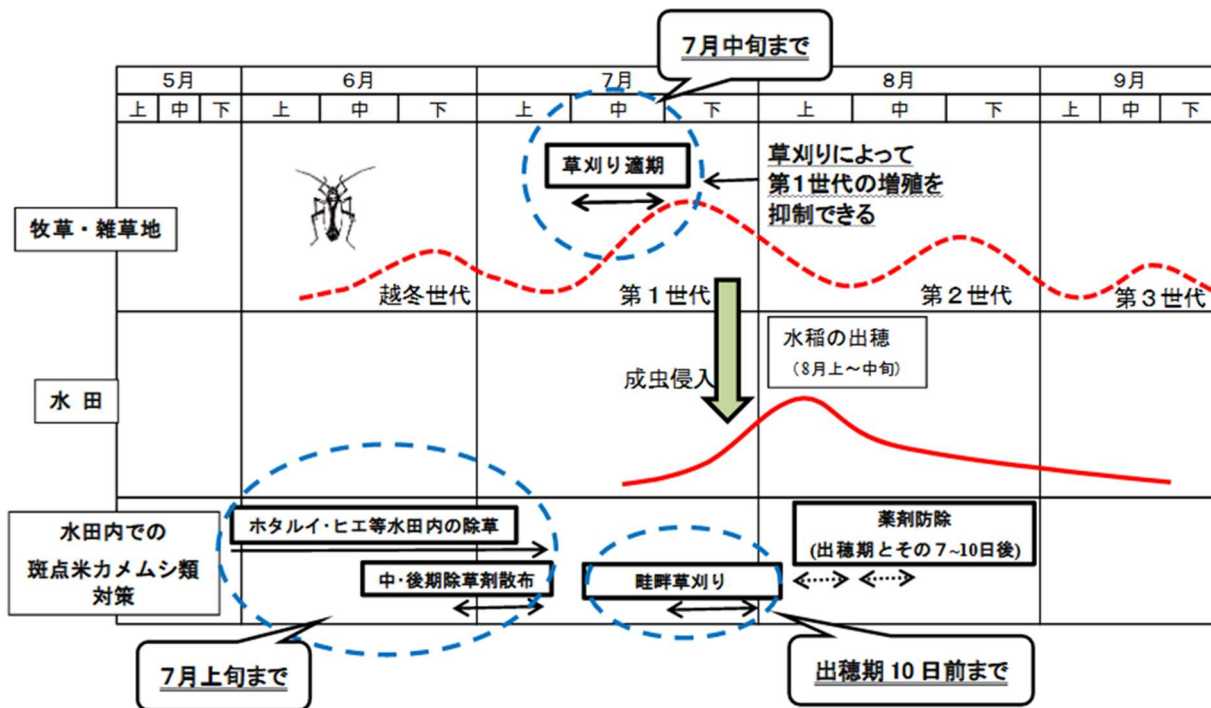


図1 アカスジカスミカメ成虫の平年の発消長と対策の時期

【病虫害防除所 HP より】